

## 平成 29 年度第 3 回防府市図書館協議会

日時：平成 30 年 2 月 15 日（木） 午後 3 時 30 分～午後 5 時

場所：防府市役所 1 号館 3 階第 3 会議室

### ■出席者

（委員）藤村会長、安光副会長、津守委員、山本委員、河村委員、新田委員、吉武委員、土井委員、山田委員（計 9 名）

（事務局）杉山教育長、原田教育部長、河田教育部次長、原田教育総務課長、森川図書館長、徳永図書館管理室長

■欠席者 山崎委員

■傍聴者 1 名

### ■議事録

#### ○事務局

定刻になりましたので、ただ今から「平成 29 年度第 3 回 防府市図書館協議会」を開催いたします。

本日お集まりの委員の皆様には、大変御多忙中、御出席を賜りましてありがとうございます。

それでは、お手元の会議次第に従いまして進めて参りますので、よろしくお願ひ申し上げます。

開催にあたり、教育長から御挨拶申し上げます。

#### ○教育長

こんにちは。今日は比較的暖かいですが、寒い日が続いており、雨が降るお天気の悪い中、またお忙しい中、本日は、防府市図書館協議会にお集まりいただきまして、ありがとうございます。

この図書館協議会により、いろいろなところで子ども達も含めまして、良い結果が出るものと期待しております。

さて、毎年 4 月に全国学力学習状況調査、いわゆる学力テストがございます。小学校 6 年と中学校 3 年で、国語と算数・数学、それぞれ A 問題・B 問題というのがあります。A が基礎的なこと、B が知識・技能を活用する能力をみるもので

す。6年生の子ども達の正答率がA問題は全国平均程度ですが、B問題は全国平均よりは、ちょっと悪いという結果が今年度の結果で出ています。これは、普段の授業だけでなく、いわゆる図書館を活用した学習等々により改善されるのではと思っております。

ただ、それだけではなくて、防府の子ども達は、全国的にみましても学習時間が少ない状況です。ようやく平均に近づいてきたのですが、図書館を活用したいろいろな活動が、本市の学力の向上にも生きてくるのではないかと期待しているところでございます。

これからも、市立図書館が、防府市の教育・文化の振興に更に寄与することができるよう、事業を進めてまいります。御協力をよろしく申し上げます。

簡単ではございますが、図書館協議会開催にあたりましての私の挨拶といたします。

#### ○事務局

それでは、防府市図書館協議会規則第三条第一項により、これからの会議につきましても、藤村会長に議事進行をお願いいたします。

#### ○議長

今日は、寒い中、年度末も迫りましてお忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。

既にご承知のとおり、また行かれた方もあるかもしれませんが、お隣の周南市の新徳山駅ビルに図書館が開館しました。建物全体としては、にぎわい交流施設ということになるわけですが、この12日までの10日間で、既に10万人以上の入館者があったとテレビのニュースなどの報道でも言われております。私も先週2回、今週夜間に1回ほど見学に行ってきました。確かに、大勢の方々でにぎわっていました。まだ始まったばかりではありますが、商業観光施設としては成功であると思います。図書館は本来、教育・文化施設でありまして、この側面からは、ご存知かと思いますが、通称ツタヤ図書館ですから、いろいろな批判があるわけですが、いずれにしましてもよし悪しは別として、営利企業の指定管理者による図書館のビジネスモデルといえるのではないかと思います。

一方、防府図書館は、昨年度から防府市文化振興財団の管理・運営に移行しまして、ほぼ2年近くを経ているわけですが、いろいろと新たなサービスにチャレンジして加えておられますし、図書館の職員の方々も業務に習熟されてきておまして、市民と図書館の距離が近くなったようにも思われます。今後一層、公益法人による図書館モデルとして充実・発展していくことを期待しているところです。

今日は、今年度第3回目の図書館協議会ということで、図書館サービス振興

基本計画に沿った形での、来年度の図書館計画についての審議が中心になります。スムーズにしっかりとした協議が進みますように、よろしく御協力をお願いいたします。

それでは、今回の会議につきましても前回と同様に、会議及び会議記録につきましては、公開ということでよろしいでしょうか。

(異議なし)

では、異議なしということで、公開で進めてまいりますので、よろしく願いいたします。

それでは、これより議事に入ります。「平成 30 年度事業計画について」、事務局から御説明をお願いいたします。

○事務局

前回の第 2 回協議会で平成 30 年度の図書館事業計画策定に向けて、委員の皆さまから御意見をいただきました。

その御意見と今年度第 1 回の協議会で出していただいた平成 28 年度事業の実施状況評価を踏まえまして、図書館で平成 30 年度の計画案を作成し、防府市文化振興財団内での調整の後、この度、平成 30 年度事業計画が策定されました。

本日は、図書館から平成 30 年度の図書館の事業計画を御説明し、事業内容や進め方について、御質問や御意見をいただきたいと存じます。

それでは、図書館長から御説明いたします。

○図書館長

資料 1 をご覧いただきながら、平成 30 年度の事業計画について、主なところを御説明申し上げます。

まず 1 ページの 1-(1) について、平成 30 年度の図書購入目標冊数は 12,600 冊以上で、うち一般が 9,500 冊、児童が 3,000 冊、郷土関係 100 冊、それぞれそれ以上の購入を予定しております。視聴覚資料購入目標点数が 155 点、うち CD130 点、DVD25 点ということでございます。これらの目標の根拠となる予算は、経常経費の図書費が 2,500 万円、それ以外に臨時経費として 500 万円がございまして、この臨時経費の 500 万円ですが、これは図書館を利用されておられる市民の方からの、図書の購入費に充てて欲しいという匿名の御寄付によるものです。これとは別に、消耗品費については、新聞等 20 種、雑誌 300 種、追録等で 460 万円を資料費として計上しております。

1-(2) では、Web 上での検索・予約・貸出期間延長、読書手帳、My 本棚、読書マラソン等の機能の活用をあげております。現在の図書館システムでは Web 上での様々な機能が追加されており、これらの機能を活用すること、機能についても広く市民の皆様方に周知し、それらを有効活用していただくこと、併せてホームページの整備・充実に努めてまいります。

1-(3)については、移動図書館車「わっしょい文庫」に常時3,500冊の図書を積載し、今現在は6コース36ステーションを2週間に1回の周期で運行しておりますが、平成30年度からは新たに西浦小学校をステーションに加えまして、37ステーションで運行していく予定にしております。

1-(4)では、国立国会図書館の「図書館向けデジタル化資料送信サービス」閲覧業務の利用促進を更に進めてまいりたいと考えております。これは、今年度(平成29年度)の7月からサービスを開始したものでございますが、このことについて更に多くの市民の皆様にご覧いただき、利用を促していきたいと思っております。レファレンス事例集や新着図書案内・テーマ別ブックリスト・パスファインダー等についても、更に充実してまいりたいと考えております。

2ページに参りまして(1)ですが、第8回防府市子ども読書フェスティバルは、5月27日開催予定です。それから第28回防府図書館まつりは、10月20日に開催する予定にしております。これらを各実行委員会、ボランティア団体等と協働して実施してまいります。

(2)では、「防府図書館ボランティア連絡会議」を1月に開催する予定でございます。それから「図書館ボランティア養成講座」を2月頃、4回シリーズで開催する予定にしております。

次に3-(1)ですが、先ほど申しました防府市子ども読書フェスティバルにおいて、元福音館書店編集長、松本徹氏による講演会を開催する予定にしております。松本氏は下関市の出身で、絵本「塩田の運動会」の出版にも深く関わっていらっしゃいました。絵本「塩田の運動会」は、防府市在住の児童文学作家・那須正幹さんと防府市出身の絵本作家・田頭よしたかさんが共同で作られた作品でございます。この作品の編集長を務められた松本氏の講演会を開催する予定です。

それから5月・7月・11月に3回にわたり、防府図書館ビブリオバトルを開催する予定にしております。

12月には防府図書館利用者懇談会を開催する予定にしております。

更に、展示コーナー等での月例資料展示、新刊コーナー等でのミニ資料展示を定期的実施し、内容の充実に努めてまいります。

4-(1)では、地域資料(防府市関係資料)についての特徴的なコレクション形成の推進に努めてまいります。年間郷土資料収集目標冊数は、受贈資料も含めまして450冊以上にしたいと考えております。

4-(2)では、「上山満之進没後80年展」について、防府市教育委員会と共催いたします。5月2日から28日まで、アスピラートにおいて、教育委員会が主催して行うものでございますが、それを防府市文化振興財団が共催いたします。

その下の防府史料は、平成30年度は第68集「近松浄瑠璃の本質と総合美的

研究」の下巻を刊行し、ホームページにも掲載する予定にしております。「近松浄瑠璃の本質と総合美的研究」については、平成 29 年度に上巻を刊行するというので、現在、作業を進めておりますが、その下巻を来年度刊行します。

著者の若月保治は、ペンネームを若月紫蘭と言いまして、メーテルリンクの「青い鳥」を、メーテルリンク本人から直接翻訳権を取得し日本で始めて正式な翻訳をした人で、防府の西浦の出身でございます。若月は、その後半生において、近松門左衛門の浄瑠璃作品についての研究をすすめ、その一つとして「近松浄瑠璃と総合美的研究」を出版しております。戦後の困窮生活の中、ガリ版刷りで出したものでありまして、これを活字に翻刻して改めて刊行するものでございます。

それから 4-(3) ですが、平成 30 年度も、春川市立図書館との資料交換とその整理・提供・保存を行ってまいります。年 1 回、100 冊程度の資料交換をしております。

3 ページ 5-(1) では、学校図書館とのオンライン・ネットワーク・システムを活用した学校支援図書の利用促進に努めてまいります。学校支援図書については、今年度 6 月より本格的に支援サービスを行っておりますが、今日現在で、これまで(今年度の 6 月から本日まで)、130 件、冊数にして 1,456 冊の学校支援図書が利用されております。これは、各学校で授業等の活動に利用させていただいているものです。

5-(2) ですが、平成 30 年度も財団内の連携・推進会議を毎月 1 回開催し、文化事業や科学事業、山頭火ふるさと館との連携を推進してまいります。

6-(1) では、「第 6 回防府市図書館を使った調べる学習コンクール」を防府市教育委員会と共催いたします。さらには、出前講座・出張イベント等を積極的に開催してまいります。民間・公共の施設を問わず、図書館職員が出張、出前でサービスをするもので、様々な行事で、ブックトークとか子どもへの読み聞かせとかを積極的に展開してまいりたいと考えています。

6-(2) では、ボランティア主催行事・研修等における図書館職員のブックトーク等の実施に努めてまいりたいと考えております。

7-(1) では、引き続き障害者福祉施設や高齢者福祉施設に移動図書館が巡回いたしまして、体の不自由な方、高齢の方等にサービスをしていきたいと考えております。それから、点字図書についても、ボランティアの皆さんと協力・連携して、これらの資料の充実を努めてまいります。視覚障害者用音声ガイド付きインターネットサービスを今年度から開始しており、これの利用の促進にも努めてまいりたいと思っております。

7-(2) では、音声資料の整備・充実をして、郵送貸出・対面朗読サービス等の活用による障害者・高齢者の図書館利用の促進を図ってまいります。今現在、

図書館において様々な障害者サービスを行っておりますが、これらを多くの方に知っていただけるよう、現在リーフレットを作成中でございます。来年度中には作成いたしまして、広く配布したいと考えております。

7-(3)では、ボランティアの皆さんと連携・協力し、認知症にやさしい図書館となるよう、ボランティア団体等との協力体制を強化していきたいと考えております。そのための研修活動も推進してまいりたいと考えております。

以上、平成30年度の事業計画について、簡単ですが、御説明をいたしました。

○議長

はい。図書館長からいろいろ説明をしていただきましたが、今の説明について、御意見・御質問がございましたらお願いします。

前回の図書館協議会で予算がからむデジタルサイネージ(電子看板)のことを少し言いましたけれども、今回も予算が絡むことで恐縮なのですが、1-(3)移動図書館車のステーションについて質問です。西浦小学校に巡回を始められるということは大変喜ばしいことですが、各ステーションの看板について、ここには移動図書館車が駐車するということがわかるようなバス停のようなものがあるといいと思います。例えば、イオンタウンに移動図書館車が来ますが、停まる前に駐車スペースを確保しているのを見たことがあるのです。その地点がステーションだとわかる看板があるといいと思いました。ただ、来年度は37ステーションになるということで、40くらいになると、1つがどのくらいの費用になるか分かりませんが、結構な金額になると思うので、図書指定のない寄附があった場合には、予算化してステーション看板ができないのかなと思いますので、御検討いただけたらと思います。

もうひとつ、3ページの5-(2)に山頭火ふるさと館との連携推進と載っていますが、山頭火ふるさと館は博物館ですから、いろいろなグッズが売られていると思うのですが、図書館でも図書館グッズとして、バッグとかマスコットキャラクターとして販売されているところもあります。そういった図書館グッズの販売について、図書館が直営なら難しいことでも、財団としてはできるのではないかと思うので、予算化できればと思います。何かあればお願いします。

○館長

最初の移動図書館のステーションにバス停のような標示物を作るということについてですが、予算もかかることであり、常時設置しておくということになりますと、安全管理上の問題も発生します。設置となると、常に図書館がそれを管理していかななくてはならない状況になります。図書館の職員がいない時に、それが風で転倒したり、あるいは人がぶつかって転倒したりということも考えられますので、そういった問題をいろいろと考えながら、他の移動図書館車を運行しているところが、どういうふうに管理しているのかを含め、調査・研究

をしていきたいと思っております。

2つ目の図書館グッズについてですが、これにももちろん予算を伴うことであり、予算ゼロの状態から何かを作り出すということは難しいので、財団の諸々の規定との整合性を考えながら、調査・研究をしていきたいと思っております。

○議長

看板については、メンテナンスのこともいろいろありますし、グッズについても課題があると思いますが、調査・研究をしていただけたらと思っております。

○委員

看板についてありましたが、今は移動図書館車が現地に行かれて、看板や立て札を立てるのでしょうか。

○館長

今現在は、看板やのぼり旗などはありません。せめて、のぼり旗くらいはあると良いという事で、のぼり旗については、今年度予算で対応したいと思っております。移動図書館車が来ている時に、のぼり旗がはためれば、利用度も上がるのかなと思ひまして、そういうものを作る予定にしております。

○委員

先ほど会長さんが言っておられましたけれども、看板の予算のこと、安全上の管理のことなどいろいろと問題もあり、場所が常時確保されているところではないので難しいかもしれませんが、常時看板が設置してあれば、何月何日のいつ頃にわっしょい文庫が来ますと書いてあると、それを見られた方も来られて、利用が増えるのではないかと思います。御質問いたしました。

○館長

移動図書館車のステーションの中には、非常に協力的なところがたくさんありまして、たとえば店舗などに移動図書館車の来る日を掲示していただいたり、あるいは店舗の出すお知らせ(チラシ等)に、今月の移動図書館車の運行日を掲載してPRをしてくださっているところもありますので、申し添えておきます。

○委員

ありがたいですね。そういうところが増えるといいですね。

○委員

平成30年度の事業計画を見せていただきまして、気づきがあったところを2つほどお話しします。

以前にも展示コーナーについて質問をしまして注目しているのですが、最近、新聞コーナーの横にある展示コーナーが、とても工夫がされていると感じております。テーマもありきたりではないものを選ばれており、意識的に取り組まれていると伺うことができ、大変良いと思っております。その時に、認知症を扱った包括支援センターのチラシがカードと一緒に置いてあるのを見て、広が

りを感じさせる展示になっていてとても素晴らしいと思いました。そして、これからは深めていくような希望を感じられてよかったですと思います。

その前の人権問題のコーナーの時も、本は図書館にたくさんあるのですが、私個人では絶対に手に取らないような本が紹介してありました。私も人権の講習会に出席することがあり利用しましたが、すごく参考になったし、いい本を読ませていただきました。そういうふうに、たくさんある本の中から、日頃手に取らない本に陽を当ててあげるのもいいと思いました。ありがとうございます。

もう1つの方は、障害者・高齢者に優しい図書館ということで、これまではなかった認知症の方に優しい図書館というのがあがっています。今、認知症が社会問題になっていて大変だといわれていますが、認知症が特別なことでなく同じ市民として、住民として向かい合って、生活していくという視点があると思います。認知症の人に回想法というのが、いろいろと取り上げられ、実践をされている図書館もあるようです。

先月、私は特別養護老人ホームを見学させていただいたのですが、そこでは回想法も取り入れて、部屋作りや廊下、共有施設もそういうふう実践されているのを見ました。それを図書館として早くから取り組まれているところもあると聞いていますが、ここでもそういう視点でもってされれば、とても素晴らしいことですので、ぜひそうしていただきたいと思いました。

#### ○館長

ありがとうございます。展示については、まだ十分ではないと思っております。ありきたりではない独創的な内容で図書館の資料の利用につながっていくような展示になるよう、スキルアップを図り、内容の充実に努めてまいります。

それから、先ほどおっしゃっていただきました認知症のことですが、認知症に優しい図書館として取り組みをすることが全国的に少しずつ増えております。そういった先進例を参考にし、状況・実態を調査・研究しながら、研修会を開くなど、少しずつできることから、そういうことに努めてまいりたいと思います。当然、行政の所管部署などからアドバイスをいただきながら、図書館でできることから少しずつ始めたいと思っております。ありがとうございます。

#### ○委員

平成30年度の事業計画の一枚目と平成28年度の事業実施状況を比べると、1-2の中に、図書館まつり・子ども読書フェスティバルというのが、ここに含まれていたのですが、平成30年度には削除されています。ただし、次の頁とか3番の中に入っていて、少し精選化を図っていると思ったのと、この実施計画も少しずつまとまってきたというふうに感じました。あっちこっちにあると、



どこの視点で評価したらいいか迷うところがありました。だから豊かな交流の場を主体とした、あるいは集会活動・文化活動に力を入れたというところで、実施計画を立て、そしてそれを評価していくというのが分かりやすく、整理を図っておられるというのを感じました。

それから1つ質問ですが、5-1のところ、学校図書館オンラインシステムを活用した、学校図書館図書利用促進の中で、6月から今回までかなり順調に利用されていると思ったのですが、貸出冊数について、たとえば個人だったら1人10冊という制限がありますが、学校として借りたり学年として借りたりする場合の冊数の上限や貸出方法は、どうなっているか教えてください。

○館長

学校支援図書は、1箱に40冊ですが、実際の授業ではもっとたくさんの冊数が必要だということであれば、40冊にこだわるものではありません。ですから、常に融通をきかせながら柔軟に対応しております。

○委員

わかりました。40冊もということであれば、十分ではないかなと思います。私は、昔、個人で借りに行き、同じ学年の者と、お互い10冊ずつ借りて帰るなどしていたため、そういう面で子どもたちが自由に本を選んで調べられるような状況であれば良いと思っていましたので、現状を聞きまして、安心しました。

○委員

付け加えて聞きたいのですが、こちらの学校支援図書の予算は、一般貸出のものではないので、その分の予算はどうなっていますか。さきほど言われた資料費の中から、確保してあるかどうかをお聞きしたいです。

○館長

先ほど申しましたように、来年度の図書費の中から学校支援図書についても計画的に購入をしていきたいと思っております。確保してあるということです。

○議長

他に何かありましたら、お願いします。

○委員

今配付されている平成28年度の実施状況評価と平成30年度を比べたときに、評価Cが1つだけあると思います。3-(1)ですが、他のところはおおむね計画的にできたということでしたが、今年度の実施状況もありましようが、平成30年度の計画の2ページ目の4-(1)、この目標冊数が450冊、平成28年度段階より61冊多いということですね。具体的にどういう方法で収集をしようとしているのか見えないと、この目標の冊数に対して、どういう手立てをするか、(郷土資料は)実際の発行数が少ないのかもしれないかもしれませんが、どういう視点でど

ういう方法で収集しようとしているのか、そのあたりは意識的に具体化しておく必要があると思います。

○館長

郷土資料については、発行点数が多い年と少ない年があり、常に積極的に購入し、受贈にも努めているわけですが、発行点数の情報が少ない場合は、なかなか思うに任せない部分があります。今現在、積極的に情報収集に努めております。1月の受払いをみますと、1月だけで郷土資料の購入が6冊、受贈が13冊で、合計で19冊を受け入れております。月によって違うのですが、今年度は、目標をクリアしたいと考えております。

○議長

今年度も努力していただければと思います。

○委員

皆様からいろいろあったので、私も要望を申し上げたいと思います。これは予算的なこともあるかもしれませんが、図書館の開館時間についてです。防府市は他の市より短い気がしています。これは抜本的に何かあるのかもしれませんが、平日なら朝9時半から午後7時までで、土日は午後6時には閉まってしまって、働く人にとっては、ご飯を食べてから行ってみようという選択肢がない状況です。今回の周南市（駅前図書館）は夜9時まで開いているようですし、他を見ても長い図書館があるようですが、改善策があるのか、このまま行くのかをお聞きしたいと思います。

○館長

周南市の駅前図書館は遅くまで開けておりますけれども、そのほかの図書館がすべて防府図書館よりも長く開けているわけではございません。下関の図書館は遅くまで開けておりますが、おしなべてみて、防府図書館は特別に開館時間が短いということではありません。山口県下の他館と比べても、全国の他館と比べても、特別短いわけではございません。平均的な開館時間であると考えています。

○委員

長くしようというお考えはないということですね。

○館長

今現在は、特に考えておりません。まだ全国的に見ますと、祝日開館をしていない図書館もたくさんあり、土日は午後5時くらいに閉館しているとか、平日でも6時くらいに閉館する図書館は、決して珍しいことではございません。ただ、都市部の大きな図書館の状況は違っていたりはしますけれども、やはり開館時間というのは、地域の状況に合わせて設定するのがもっとも適切な方法であるというふうに、図書館界の中でも言われております。もちろん開けてお

けば、夜中の12時ごろでも来館する人はいると思われま。しかし、長く開けておけば、当然費用がかかるわけですから、常に費用対効果を念頭に置いてサービスをしていかななくてはならないと思っております。今、ルルサス防府の中で運営をしており、平日は7時まで開いておりますが、午後6時を過ぎると、利用者が減っております。6時ごろからどんどん増えるということではなく、6時ぐらいからかなり利用者が減ってきているということが実状ですので、利用者の実態を見ながら開館時間を設定すべきだと思います。

○委員

わかりました。ありがとうございます。

○議長

周南の開館時間のことが出ましたけれど、周南駅前図書館は年中無休で午前9時30分から午後10時までやっておりますが、スタッフはそのほとんどが非常勤でツタヤの非正規職員です。だから土日祝日無休で、9時半から10時までとなると、3交代ぐらいになるのではないかと思います。しかも駅前図書館の場合は、図書館とツタヤ書店の兼任になっていて、何時から何時は図書館、何時から何時はツタヤ書店となっていると思いますけれども、これはかなり厳しい条件だと思うのです。そして時給900円の非正規職員です。

数百メートルしか離れていない中央館の方は、祝日もやっていませんし、午後6時までの開館で、防府図書館より短い開館時間になっていますね。

それと、ついでに入館者数のことも言いますと、周南駅前図書館は、施設全体として11か所の入館者カウントのためのセキュリティーゲートが付いています。だから入って出ると1人とカウントするのですが、それが11か所もあると、私も3日間で数人の入館者になっているのではないかと思います。そういうふうに水増しされた入館者数になるので、周南でも去年の12月議会で、そのことが問題になり一般質問が出まして、教育長さんが施設全体の延べ人数になっているといわれていました。ですから、10万人といいましても、実数はどれぐらいになるかという変わってくると思います。

○委員

先ほどグッズのことがあったので、お伺いしたいのですが、防府市にはキャラクターというのがありますか？

兵庫県伊丹市にまいりました時に、本を持っているキャラクターがありまして、伊丹市の方に図書館独自のキャラクターですかとお尋ねしたところ、そうではなく市のキャラクターだということでした。防府市もキャラクターがあるなら本を持っていれば、あまりお金がかからずにグッズができるのではないかと思いますので、ご検討いただければと思います。

それから2ページ目のボランティアについてですが、中・高校生のボランテ

ィアということが既にあるのかをお聞きしたいと思います。伊丹とか豊中とか、実際にやっているところに4館ぐらい見学したのですが、集まりにくいという話で、中・高校生ボランティアというよりも既存のボランティアという意識が強いのではないのでしょうか。

#### ○館長

まず最初のキャラクターの件ですが、防府図書館では防府市のキャラクターである「ぶっちー」を使用していませんけれども、図書館入口に防府市在住の作家・那須正幹さんの「ズッコケ三人組」のキャラクターを使った看板を立てています。これは、利用者サークル連絡会の皆さんから、平成18年にルルサス防府の中に防府図書館が開館する際に、お祝いとして寄贈していただいたものです。これを防府図書館としては1つのキャラクターと位置づけて、エントランスに置いているのです。

それから中・高校生のボランティアについては、今現在、恒常的に活動しているボランティアはいません。ただ、中高生の職場体験・インターンシップをしてもらうことはしています。あと、障害のある子どもさんに、長期にわたって職場体験をしてもらうプレジョブというものがあります。障害のある子どもさんを図書館のボランティアという形で受け入れて、週1回半年間にわたって来ていただくようなことをしています。

あと年に1回、防府商工の生徒さんが、ルルサス防府全体の清掃活動を行うボランティアとして、1日だけ入ってこられることはあります。恒常的にボランティアとして活動しているということはありません。

#### ○委員

清掃というボランティアは、私の考えるボランティアとは違っておまして、例えば新聞を作るとか、自分たち用の選書をするとか、自分たちのために中高生が活動をするという意味で、そういうのがいいのではないかなと思っております。同じ様にアクティブシニア（元気なお年寄り）の活躍の場所というのが、前から私が申し上げておりますが、この計画の中のどこにあるのかなと思ひまして、それが見えないので、どこかに入っていくといいなと思っております。

もう1つはどこもそうかもしれませんが、図書館だよりを作れば、楽しく利用できるのか、市民の方たちとの利用者懇談会は分かるのですが、伊丹は市民の方たちの声を聞くとして「ライブラリーオブザイヤー」を受賞しています。市民の声を吸い取るような機関、これは図書館協議会かもしれないですが、これだけではなくて、市民の声を聞いてあげて、それを反映させることがあってもいいのではないのでしょうか。

#### ○館長

はい。市民の方の声については、図書館で様々な行事を行った際に、アンケート用紙を配付しまして、そこに図書館サービスに対するご意見を書いていただいております。

実は、今日も図書館ボランティア養成講座（4回シリーズ）の第3回目があったのですが、そこでアンケート用紙を配付いたしまして、図書館業務そのものに対する御意見・御要望をお聞きしています。様々な行事の時には、市民の皆様から、図書館サービスに対する建設的な御意見をいただくようにしています。

それと、先ほどの中学生、高校生が図書館の中で活躍する場ということですが、今、図書館が指定管理になっており、担当部署ではないのですが、第2次防府市子ども読書活動推進計画の中で学校図書館の充実等を様々な形でうたっています。私見ですが、子どもたちはまず自らの学校図書館の中で様々なそういう活動することによって、図書館への理解を深めていくことができるのではないかと考えております。今、防府市では、学校図書館の充実に鋭意努めておられまして、その学校図書館の充実を通じて、司書教諭の先生方あるいは学校司書の方と一緒に、子どもたちが、学校図書館の中でボランティア活動をしていくことから始めるのが、身近なボランティア活動として良いのではないかと考えております。

○議長

アクティブシニアについては、2ページのところですが、子ども読書フェスティバルとか、防府図書館まつりとか、本当にアクティブシニアが大活躍しているのですが、そういうことではないのですか。

○委員

そういうことではなくて、自ら自分たちが生きがいとしてやっていくという意味で、自分たちが自分史を作るとか、自分が講師となってやるという意味で、お手伝いとかそういうものではなく、もうちょっと上を言っているのですが。

○館長

今、防府図書館では、様々な集会文化活動が行われており、山口県下の図書館の中では、もっとも活発な文化活動が行われています。これには、アクティブシニアの皆様が意欲的に活動していらっしゃるということがあります。その中のいくつかのグループは、子どもたちにも門戸を開いています。例えば、任意のサークル活動で自由律句の会がありまして、このサークルは子ども向けの自由律句の講座も毎月開いています。もちろん指導をするのは大人ですが、子どもたちに指導しています。そういう集会文化活動を通じて、シニアの皆様が生きがいを見出していらっしゃる気がします。

○委員

中高生のボランティアの話から思ったことがあります。県内の他の図書館で

そういう試みをしているのをネットで見たのですが、書店員が選んだ本屋大賞みたいな感じで、中高生の図書係の子どもたちが選んだ本などを図書館で展示しているというものだったのですが、それはすごく面白いと感じました。なぜなら大人が子どもに読ませたい本と、子どもが面白かった本とが全く視点が異なっていて斬新だったからでした。そういう取り組みは広がっていくと思いますし、比較的金もかからずに、子どもの目を市立図書館に向けるという意味でも良いのではないのでしょうか。

○議長

提案としてお聞きしたいと思います。

それでは、事務局からお願いします。

○事務局

たくさんのお意見をいただきまして、ありがとうございます。

今年度は、今回の協議会が最後になるのですけれども、来年度の第1回目の協議会では、平成29年度の事業の評価をしていただく予定にしております。6月頃に図書館が今年度の事業を総括し自己評価をしたものを、委員の皆様にお送りして、実施状況評価シートでコメントをいただいて、それを事務局で資料としてまとめたものを協議し、評価をお願いしたいと考えております。先ほども委員の方からお話がありましたように、事業の項目をまとめたことについて、評価がしやすくなったという御意見をいただいて嬉しく思っております。今回も同じ方法で進めていきたいと考えておりますけれども、他にも御意見がございましたら、この場でお伺いして、次回の協議会に活かしたいと思っております。

○議長

今回の評価については、委員の皆様には御苦勞をおかけしましたけれども、何か評価の仕方についての御意見がございませうか。前回と同様でよろしいでしょうか。

では、全体を通して御意見・御提案等がございましたら、お願いします。

○委員

別件ですが、防府市の小学校長会からの情報提供ですが、協議会の委員の皆様にお伝えしておきます。実は平成31年、2年後になるのですが、山口市で中国地区学校図書館研究大会というのが開催されます。それが山口市で開催されるということで、防府市も協力するということになり、まだ決定ではないですが、今現在のところ本市から、実践事例を発表することになりそうです。中国地区とか防府市の取り組みで何を発表したらいいのかということをお数名の幹事会で話したところ、オンライン・ネットワーク・システムを活用したものなどが議題に上がってくるのではないかと考えています。もちろん、学校司書と協力した子ども達の読書活動の取り組みや家庭との連携など、いろいろなキーワ

ードがあると思います。どちらにしても実践発表ですので、連携ということであれば防府図書館とかボランティアの方などといったところも出てくると思いますので、お知恵を拝借といたしますか、御協力をよろしくお願いいたします。

○議長

はい。ありがとうございました。

3 その他ですが、事務局から何かありますか。

○事務局

先ほども申しましたが、来年度の協議会は、平成 29 年度の事業評価ということになるのですが、7 月頃の開催を予定しております。こちらの資料がまとまりましたら、なるべく早く開催したいと思っております。よろしくお願いいたします。

○議長

本日は、平成 29 年度の第 3 回目の協議会でしたけれども、来年度の事業計画について図書館長から説明を受け、御意見・御質問を出していただきました。今後も、委員の皆様から御意見をいただきながら図書館事業が充実したものになるよう協議を進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

これをもちまして、本日の協議題を全て終了しましたが、最後に冒頭申しました通称ツタヤ図書館について、図書館友の会全国連絡会が発行しましたパンフレットがございます。それを事務局に預けてありますので、今度、徳山駅前図書館を見学に行かれる際に御参考にされればと思います。御案内しておきます。

それでは、委員の皆様、長時間にわたり熱心に協議していただきありがとうございました。

○事務局

それでは、これで平成 29 年度第 3 回図書館協議会を終了いたします。

皆様、気をつけてお帰りください。ありがとうございました。